

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 家庭 第32号

- 高等学校，特別支援学校対象 -

平成19年5月発行

### 被服整理に関する学習指導の工夫

#### - 小，中学校との関連を図った指導の在り方 -

高等学校家庭科における衣生活分野の学習については、『高等学校学習指導要領解説家庭編』家庭総合 イ 衣生活の科学と文化において、「被服の構成の基礎を理解させ、被服を製作させるとともに、日常の被服を適切に選択し管理できるようにすることをねらいとしている。」と述べられている。

この分野の学習では、被服製作だけに重点を置くのではなく、衣服の選び方が分かり、手入れ等ができるといった消費者としての視点をもたせたり、環境・資源に配慮した衣生活に主体的にかかわる力を身に付けさせたりすることが求められている。しかし、ファッションに関心をもつ生徒は多いが、素材に対する関心は低く、手入れ等の被服整理については人任せになっている状況が見られる。そのため、衣生活を管理する力を育成するには、生徒が関心をもちやすい事例の提示や題材の工夫が必要である。

そこで、本稿では、被服整理に関する学習指導について、小，中学校の実践例を基に、高等学校との校種間の関連を図った指導の在り方や効果的な実験について述べる。

#### 1 被服整理に関する学習内容

教科の基礎・基本を確実に押さえ、ねらいを達成させるためには、小学校，中学校，高等学校の各段階でどのような力を付けさせるかを把握することが必要である。

被服整理に関する学習内容を、各校種ごとにまとめると表1のようになる。高等学校では、小，中学校段階での扱いの程度や学習内容の深まりを確認した上で、小・中・高の関連を踏まえた指導をすることが大切である。

表1 被服整理に関する学習内容

小学校	中学校	高等学校 (家庭総合)
(2)衣服の働きと日常着の着方・手入れ ボタン付け，洗たく(手洗い)	A(3)衣服の選択と手入れ ・衣服の計画的な活用と選択(既製服の表示と選択) ・衣服材料に応じた手入れと補修(洗濯機洗い，洗剤の働き，しみ抜き，アイロンかけ，まつり縫いなど)	(4)生活の科学と文化 イ 衣生活の科学と文化 (I)被服整理と衣生活の管理 ・洗剤の働き ・湿式洗濯と乾式洗濯の特徴 ・組成表示，品質表示，取扱絵表示

河野公子編著『高等学校学習指導要領の展開家庭科編』平成11年明治図書p28,p29より作成

#### 2 被服整理に関する学習指導の工夫

##### (1) 小学校，中学校の実践例

小，中学校における被服整理に関する

実践例については表2，表3のとおりである。小学校（表2）では，洗濯の計画を立てる学習や，手洗いの実習をしている。中学校（表3）では，衣服の補修や，アイロンかけ，ブラシかけ，洗剤の働き，しみ抜きなどの学習をしている。

小，中学校とも展開過程の後半は，学習したことを各自まとめて発表させる学習活動を行っている。このような学習活動を通して，家庭生活にかかる事象についてより深く理解させ，自分の言葉で生活を表現する力を育成していくことが大切である。

表2 小学校の実践例

【指導計画】  
 題材 衣服を整えよう 全6時間

主 題	時 間
1 衣服の働きと日常着の着方を考えよう	2時間
2 衣服を気持ちよく着るための工夫を話し合おう	1時間
3 洗濯の計画を立てよう	1時間
4 衣服の洗濯をしよう（展開例）	1時間
5 これからの生活に生かしたいことについて話し合おう	1時間

【展開例】  
 主題 衣服の洗濯をしよう（5/6時間）  
 目標 手洗いによる洗濯について，基本的な洗い方や絞り方などを知り，身近な衣服を手洗いすることができる。

過程	学習活動	時間	教師の指導等
導入	1 手洗いの仕方を確認する。	5分	洗濯の仕方を発表させる。 学習カードに記入させる。
	2 学習課題をつかむ。		
展開	3 汚れを落とすのに洗濯すればよいだろうか。	35分	汚れた靴下の片方だけを洗いさせる。洗剤の使い方や洗い方，干し方の過程の中で工夫することを考えながら活動させる。汚れた靴下の片方を洗濯し，汚れの落ち具合をもう一方と比較させる。どのような方法で洗濯したか具体的に説明させる。すすぐ，しぼることによる効果についても
	4 衣服を洗濯する。準備，洗う，すすぐ，絞る，干す。		
	5 手洗いで洗濯したことや付いたことを発表する。		

		考えを絞る。手洗いを比べる。汚れを落とすために洗濯機を使う。布介染む。地す機。合わせる。洗いの大いさ。種類や工夫。程度にする。工程を解き。実践発表。実践意欲を高める。
終末	6 本時の学習，振り返りの仕方，手洗いの仕方，洗濯のまとめ。	5分

（鹿児島市立田上小学校の実践を基に作成）

表3 中学校の実践例

【指導計画】  
 題材 日常着の手入れ 全7時間

主 題	時 間
1 身近な衣服の材料の性質を知ろう	1時間
2 衣服の手入れと補修をしよう	1時間
3 スナップとボタンを付けよう	1時間
4 アイロンかけとブラシかけをしよう	1時間
5 洗剤の働きを知ろう（展開例）	1時間
6 洗濯機で洗濯をしよう	1時間
7 しみ抜きをしよう	1時間

【展開例】  
 主題 洗剤の働きを知ろう（5/7時間）  
 目標 洗濯について関心を持ち，洗剤の働きを知り，適切な洗濯方法を理解することができる。

過程	学習活動	時間	教師の指導等
導入	1 汚れた服を観察する。	5分	汚れた服を提示し，問題点に気付かせる。学習カードに記入させる。
	2 学習課題を設定する。		
展開	3 正しい洗濯方法について予想する。	35分	正しい選択の仕方について予想を立てさせる。洗剤を用いた実験を行うことで四つの洗剤の働きに気付かせる。実験結果を学習カードに記入させる。
	4 洗剤の働きについて実験する。 ・浸透，乳化，分散，再汚染防止		
	5 洗剤に関するVTRを視聴し，適切な洗濯方法を発表する。		
	6 本時の学習，振り返りの仕方，洗濯のまとめ。		
終末		10分	汚れが落ちる過程をVTRの視聴を通して説明する。実験結果とVTRの視聴方法を基に，適切な洗濯方法を発表させる。洗剤の働きを通して適切な洗濯方法を理解させ，今後の生活に生かせるようにする。

（鹿児島市立伊敷中学校の実践を基に作成）

(2) 被服整理に関する指導上の留意点

『高等学校学習指導要領』の「第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」には「総授業時数のうち、原則として10分の5以上を実験・実習に配当すること。」と示されている。そこで、衣生活に対する興味・関心を高めるような実験・実習を取り入れた計画を立て、科学的視点に立った指導をすることが必要である。

指導に当たっては、被服材料の性能等に関する知識を生かした被服整理ができるように留意したり、生活環境の破壊や資源の問題などと関連付けたりすることが大切である。「家庭総合」における指導上の留意点については、表4のとおりである。

表4 指導上の留意点(家庭総合)

指導上の留意点
各家庭にある洗剤の成分を調査させる。
界面活性剤の働きに関する実験をさせる。
クリーニングトラブルの事例研究などからトラブルへの対応法や防止策を考えさせる。
アイロンかけの実習をさせる。
健康で安全な被服を考える糸口として、皮膚障害や着衣着火事故などの具体例を取り上げて、それらの防止について考えさせる。
各自の不要衣服の有効利用を考え実践させる。(被服製作と関連させることも考えられる。)
回収された衣服のリサイクルの流れを知らせ、衣服をごみとして捨てない、一枚の衣服を長く大切に着ることの意味を考えさせる。
被服の購入、活用、手入れ、保管、再利用、廃棄までを視野に入れた被服計画を立案させる。

河野公子編著『高等学校学習指導要領の展開家庭科編』平成11年明治図書p84より作成

(3) 小，中学校との関連を図った実験例

小，中学校の実践例を基に，校種間の関連を図った高等学校における実験について述べる。

ア 洗剤の成分

洗剤の働きについては，中学校で界面活性剤について学習している。高等学校では洗剤の成分について，合成洗剤に含まれる蛍光増白剤を取り上げ，この物質

が確認できる実験を示す。



写真1 実験準備

【試料】  
合成洗剤(蛍光増白剤入り)，粉石けん，検査用衣服(蛍光増白剤入りの洗剤で洗ったもの)  
【用具】  
ブラックライト，ダンボール箱(内部を黒紙で貼ったもの)，ピーカー

【方法】

合成洗剤と粉石けんをそれぞれ

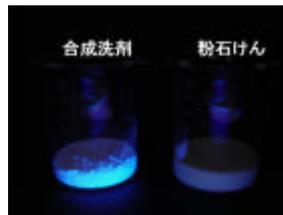


写真2 実験結果

ピーカーに入れて，ダンボール箱の中に置きブラックライトを当てる(写真2)。

検査用衣服をダンボール箱に入れて，ブラックライトを当てる。

， を観察して，光ったもの，光らなかったものを記録する。

合成洗剤，粉石けんの成分について調べる。

蛍光増白剤はブラックライトに反応して青白く光ることから，ブラックライトを各試料に当てることで，蛍光増白剤の含有が確認できる。実験の結果，合成洗剤は反応して光り，粉石けんは光らないことを観察できる。また，検査用衣服は光ることから，蛍光増白剤は洗濯しても衣服に残ることを観察できる。

この実験を洗剤の種類についての学習の導入として行い，さらに，その成分の働きや環境への負荷を理解させることで，洗剤の種類や使用量を考えた環境負荷の少ない洗濯方法へと展開することができる。

## イ 湿式洗濯と乾式洗濯

洗濯については、小学校で手洗い、中学校で洗濯機洗いを学習している。次に、高等学校での新たな学習内容である乾式洗濯について、ベンジンを有機溶剤として用いて、湿式洗濯との違いを確認することのできる実験(全国クリーニング生活衛生同業組合連合会の資料を参考)を示す。

### 【試料】

ベンジン、水、食塩、バター、トイレットペーパー

### 【用具】

ビーカー、ガラス棒

#### [ 実験 1 : 水性の汚れ ]

#### 【方法】

水50mlと、ベンジン50mlをそれぞれビーカーに入れる。

各ビーカーに食塩を2gずつ入れて攪拌する。食塩は水性の汚れ



写真3 実験結果

#### [ 実験 2 : 油性の汚れ ]

#### 【方法】

水50mlと、ベンジン50mlをそれぞれビーカーに入れる。

各ビーカーに湯煎して柔らかくしたバターを2gずつ入れて攪拌する。バターは油性の汚れの代用



写真4 実験結果

#### [ 実験 3 : 型崩れ ]

#### 【方法】

水50mlと、ベンジン50mlをそれぞれビーカーに入れる。

各ビーカーにトイレットペーパー(5cm×5cm)を入れて攪拌する。

トイレットペーパーは布の代用である。



写真5 実験結果 (写真5)。

実験の結果、食塩は水に溶け、バターはベンジンに溶けることを観察できる。また、ベンジンに浸けたトイレットペーパーは、変化しないことを観察できる。

これらの実験を通して、湿式洗濯は水性の汚れを落とし、乾式洗濯は油性の汚れを落とし、型崩れしないことが確認できる。また、それぞれの変化を視覚的に実感することで、知識の定着を図ることが可能である。さらに、汚れの種類に応じた洗濯方法について、生徒自身の生活に置き換えて考えさせる場を設定し、展開することで実践力の育成につなげることができる。

以上、被服整理に関する学習指導の工夫について述べてきたが、指導の充実のためには、小、中学校での問題解決的な指導方法を参考にすることも大切である。それゆえに校種間の交流を推進し、小、中学校での学習内容を踏まえた学習指導の工夫改善が望まれる。  
(教職研修課)

